



「怠け」とか「ずる」とか「嘘」とか

「教育」が
仕事です

特別支援学校では、毎朝グラウンドでランニングをしています。1周走ると、マグネットを1コ、周数が書いてあるマグネットボードの表のマスに貼り付けます。今朝、ある先生が生徒を連れて、職員室にやってきました。そして、その先生が担任の先生に伝えていたことはこんなことでした。その生徒はそれほど走っていないのに、走っていた周数以上のマグネットをマスの方に移動させていたというのです。「1周走ったら、1コだよ。2コは・・・、そう、だめだよ。」と実物のマグネットとマグネットボードを使って担任の先生が丁寧にルールの確認をしていました。生徒本人は神妙な顔で頷いて



いました。生徒が職員室を出て行くと、担任の先生たちとその行動の分析をしました。「楽しい気持ちを切り替えられず、ふざけることで先生の気を引こうとしていた」「1周に対して1コが十分に理解できていない」等。いずれにしてもそこに悪意は存在していないということ

を前提にお話ししていました。「さすが、特別支援学校の教員だな」と感心しました。そうなのです。まず、生徒が怠けているように見えたり、ずるをしていたり（不正を行っている）という様子があったとき、生徒に悪意が無いことを前提に考えているのです。そうなるってしまう背景を考えるのです。私たちは警察ではないのです。教師です。対象は「犯罪」ではなく、「教育」です。生徒を「罰する」のではなく「教育し、人として成長させること」を仕事としていることを忘れてはいけな

怠ける

まず「怠ける」を考えましょう。私たちが怠ける時ってどんな時でしょう。「怠けたことなどない」とおっしゃる方もいるかもしれませんが、私の場合、体調が悪い時、やる気が出ない時、興味が持てない時。そんな時のような気がします。例えば、疲れた日は家事を怠けます。一週間のうちで何とかつじつま合わせをして、日々をやり過ごしています。そう、私たち大人も、いつでも元気いっぱい、精いっぱいがんばり続けることは難しいのです。無意識ですが、仕事だって緩急付けて、適当に力を抜きながらやっていますよね。お茶を飲んだり仕事とは関係のないおしゃべりをしたり、ぼーっと他のことを考えたりしながら。生徒の姿が「怠けている」ように見えた時、その時は「疲れているのかな」「興味が無いのかな」と考えて様子を見ましょう。生徒を叱って態度を改めさせようとするのではなく、休憩を入れてみたり、興味をそそるような工夫を試してみたりするなど教員の方ががんばるべきなのかもしれません。



ほどほどにやる



発達障害のある方の中には、「ほどほどにやる」ことが苦手で、100%の力でやるか、疲れてしまって、突然全くできなくなるかしかなく、誤解を受ける方もいます。「あんなにできたのに、何で今やらないのか」「すぐに手を抜く」となるのです。「ほどほど」ができないため、長く続かないのです。「ほどほど」の練習が必要です。うまく怠けながら長く働けることは、これからの働き方として必要なスキルなのではないかと思うのです。怠けている姿を見つけて叱咤することは、生徒のストレスを助長し、結果として不登校となったり、ストレスのはけ口を間違えたいじめへと発展したりする可能性が危惧されます。生徒の怠けている姿を何かしらのシグナルであると捉える視点が教師には必要なのではなかと思うのです。

ずるをする嘘をつく理由

一方、生徒がずる（不正行為）や嘘をつくとき。そんなときはどんな時でしょう。かなり切羽詰まった、八方塞がりな、にっちもさっちもいかない時なのではないでしょうか。まじめにやっても、または本当の事を言ってもうまく行かない、怒られるとわかっていれば、ずるをしたり、嘘をついたりしてその場をしのいでしまいたくなります。発達障害のある生徒、ワーキングメモリ（専門アドバイザー通信11月参照）が低い生徒の中には聞き取った言葉の理解をまちがえていたり、言葉での説明がうまくできなかったりして、結果的に嘘をついていることになってしまうこともあります。また、虐待経験がある生徒も同じような傾向が見られます。嘘をついたりずるをしたりする生徒は、「根っからの悪人」として扱う前に嘘やずるでごまかしてしまう理由についてよく聞き取ってみる必要、その原因を推察して見る必要があるように思います。



「助けて」のメッセージ

かつて私が担任をしていた生徒は本当によく嘘をついていました。私は時々だまされていました。その一方で「明らかに嘘」とわかってとりあえず聞いたこともありました。今思うと、その生徒は私にだけ嘘をついていたような気がします。私はだましやすかったのかもしれませんが。そして私は決して懐が深い人間というわけではないので、生徒がいなくなった後に嘘に気がついて腹をたてていたこともありました。嘘をつくことは悪い事です。でも、嘘を交えながらも私に伝えたい気持ちやわかっていてもらいたい事がその時あったのかな、と今思い返すことがあります。そう考えると、人が怠ける、ずるをする、嘘をつくというのは、「わからない」「助けて」のメッセージなのかもしれません。なかなか奥が深いもののように思います。

深呼吸をしてこう考えると、子どもの怠けも嘘もちょっと引いて考えられて、冷静になって前向きに考える事ができるようになるのではないのでしょうか。